



月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jim@geppou.asj.or.jp 宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

### 人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

#### 東北大学大学院理学研究科天文学専攻教官

1. 助手 1 名
2. (1) 東北大学大学院理学研究科天文学専攻天文学講座  
(2) 東北大学大学院理学研究科（仙台市青葉区）
3. 天文学
4. 理学研究科ならびに理学部における天文学の研究、教育、運営
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
6. 大学院博士課程修了または同等以上
7. 履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文（5 編以内）、研究計画書、本人について意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先
8. 2003 年 12 月 25 日（木）（必着）
9. (1), (2) 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉  
東北大学大学院理学研究科  
天文学専攻長 関 宗蔵  
Tel: 022-217-6503 Fax: 022-217-6513  
e-mail: seki@astr.tohoku.ac.jp
10. 応募書類は封筒に「親展」と朱書し、簡易書留で送付のこと。

#### 独立行政法人理化学研究所中央研究所 計算宇宙物理研究室研究員

1. 研究員 1 名

2. (1) 独立行政法人理化学研究所中央研究所 計算宇宙物理研究室  
(2) 和光市広沢
3. 宇宙物理
4. 情報基盤研究部計算科学研究室は 2003 年 10 月 1 日をもって、計算宇宙物理研究室と改組された。今後は宇宙物理学、特に最高エネルギー宇宙線の研究を柱とすることになった。本公募では、最高エネルギー宇宙線を宇宙から観測する Extreme Universe Space Observatory (EUSO) ミッションを責任をもって推進する意欲的な人材を求める。
5. 平成 16 年 4 月 1 日以降なるべく早い時期
6. 平成 16 年 4 月 1 日時点で原則として 50 歳以下の博士号取得者
7. (1) 履歴書（写真貼付）、(2) 業績リスト、(3) 主要論文別刷（3 編程度）、(4) これまでの研究概要と成果、これからの研究に対する抱負（A4 判 5 枚以内）、(5) 推薦書 1 通とそれ以外で照会可能な方 2 名の氏名と連絡先
8. 2004 年 1 月 5 日（月）必着
9. 〒351-0198 和光市広沢 2-1  
独立行政法人理化学研究所中央研究所  
計算宇宙物理研究室 戎崎俊一  
Tel: 048-467-9414  
e-mail: ebisu@postman.riken.go.jp
10. 書留で「研究員公募」と朱書のこと。

#### 東京大学大学院理学系研究科教官 地球惑星科学専攻助教授

1. 助教授 1 名
2. 地球惑星科学専攻宇宙惑星科学講座
3. 宇宙惑星科学分野における、実験・観測的手法による、広義の惑星科学（惑星間空間、惑星磁気圏、惑星大気、月・惑星、小惑星・隕石およびそれらに関連する分野）
3. 上記分野の教育・研究に主導的役割を果たすとともに、将来の惑星科学への発展に意欲的に取り組める方。着任後は他の教官（「項目 11」参照）と協力して宇宙惑星科学の研究、および大学院・学部教育

(実験指導を含む)を積極的に推進していただきます。

5. (1) 着任は平成16年4月1日以降できるだけ早い時期  
(2) 任期は6年程度(任期についての詳細はお問い合わせください。)
6. 博士号取得者
7. 提出書類 (a) 履歴書, (b) これまでの研究概要(1,600字程度), (c) 研究論文リスト(査読付き論文とその他を区別してください), (d) 主な原著論文の別刷またはコピー(5編以内), (e) 今後の研究・教育の計画・抱負(1,600字程度), (f) 自薦の場合は応募者に関してご意見を頂ける方2名の氏名および連絡先(住所, 電話, 電子メール), (g) 他薦の場合は, 推薦書のほかに, 前記事項(a)~(d)の概要が分かる書類
8. 応募締切 平成15年12月22日(月)必着
9. (1) 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学大学院理学系研究科  
地球惑星科学専攻 浦辺徹郎  
Tel: 03-5841-4542  
e-mail: urabe@eps.s.u-tokyo.ac.jp
- (2) 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学大学院理学系研究科  
地球惑星科学専攻 星野真弘  
Tel: 03-5841-4584  
e-mail: hoshino@eps.s.u-tokyo.ac.jp
10. 封筒に「宇宙惑星科学講座助教授公募書類在中」と朱書し, 簡易書留で送付のこと。
11. 当該講座の教官リストおよび当該講座の概要など, 詳しくは当専攻 WEB: <http://www.eps.s.u-tokyo.ac.jp/jp/> をご覧ください。

## 人事公募結果

### 名古屋大学太陽地球環境研究所教官

1. 第95巻12号
2. 三好由純(日本学術振興会特別研究員(PD))

### 東北大学大学院理学研究科天文学専攻教官

1. 第96巻6号
2. 服部 誠(東北大学大学院理学研究科助手)
3. 2003年10月1日

## 国立天文台理論天文学研究系助手

1. 第96巻7号
2. 大向一行(日本学術振興会特別研究員(PD))
3. 2003年12月1日

## 研究会・集案案内

### 第2回「坂田・早川記念レクチャー」 記念講演会

坂田・早川記念レクチャー制度は, 坂田昌一・早川幸男両教授の業績をたたえつつ, 未来の発展につながるよう, 次世代の優れた研究者を育成することを目的として設けられました。この趣旨に沿って, 名古屋大学大学院理学研究科と名古屋市科学館の共催による記念講演会を毎年の恒例行事として開催しています。今回は, X線天文学を切り拓いてこられた田中靖郎氏をお招きして, 「X線で宇宙を探る」と題してお話いただく予定です。奮ってご参加ください。

日時: 2003年12月20日(土) 14:00~17:00

会場: 名古屋市科学館

講演題目: X線で宇宙を探る

—X線天文学40年の歩み—

講演者: 田中靖郎(宇宙科学研究所 \*名誉教授, マックス・プランク宇宙物理学研究所客員教授)

\*現宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部

対象: 高校生およびそれ以上

定員: 300名, 多数の場合は抽選

受講料: 無料

申込方法:

- 1) 講演会ホームページ <http://www.ncsm.city.nagoya.jp/astro/lecture/> からお申し込みいただくか,
- 2) 往復はがきに, 住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入し, 返信部分に申込者の宛名を書いて, 〒460-0008 名古屋市中区栄2-17-1 名古屋市科学館「坂田・早川記念レクチャー」係まで郵送してください。

申込締切: 2003年12月6日(土)

問合せ先: e-mail: [sh\\_lecture@z.phys.nagoya-u.ac.jp](mailto:sh_lecture@z.phys.nagoya-u.ac.jp)

メール以外では, 特に講演内容に関しては,

名古屋大学大学院理学研究科 Z 研 長田哲也

Fax: 052-789-2922, 申込方法・会場等に関しては,

名古屋市科学館天文係 野田 学

Tel: 052-201-4486



会務案内

日本天文学会 2003 年秋季年会報告

2003 年秋季年会は 9 月 25 日 (木)～9 月 27 日 (土) の 3 日間、愛媛大学城北キャンパス (愛媛県松山市) にて口頭会場 7, ポスター会場 2 を使って開催された。講演件数は口頭講演が 320 件, ポスター講演が 275 件あり, 合計で 595 講演だった。これに加え, ポストデッドライン講演が 1 件あった。年会参加者は 789 名 (ジュニアセッションとあわせて 795 名) だった。開催地理事の栗木久光氏を中心とする愛媛大学の方々の尽力で順調に行われた。企画セッションはコンペナー制にて「南天の探求」(世話人: 山本 智 (東大)・長田哲也 (名大)・米倉覚則 (大阪府立大)) および「アマチュアとプロの連携による天文学」(世話人: 山岡 均 (九大)・渡部潤一 (国立天文台)・加藤太一 (京大)) が開かれた。

座長は次の 39 名の方々(下表)に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示す (敬称略)。

〈記者会見〉

秋季年会の前日, 9 月 24 日 13:30 から愛媛大学城北キャンパスで記者会見を行った。松田卓也理事長よりの挨拶の後, 以下のトピックスについての解説が行われた。地元テレビ局 2 社を含む 5 社の報道機関の出

席があった。

(1) 「天と地と: 多波長観測で暴くガンマ線バースト源の正体」

記者会見発表者:

河合誠之 (東京工業大学大学院理工学研究科・教授 および理化学研究所・客員主管研究員)

川端弘治 (国立天文台・光学赤外線天文学・観測システム研究系・研究員)

家 正則 (国立天文台・光学赤外線天文学・観測システム研究系・教授)

久野成夫 (国立天文台・電波天文学研究系・助手)

関連する講演番号: H51a, H55a, H38b, H44c, H57a, H40b, H41b, H42c, H43c

(2) 「躍進する日本のアマチュア天文家—プロと連携して天文学を切り拓く—」

記者会見発表者:

山岡 均 (九州大学大学院理学研究院・助手)

渡部潤一 (国立天文台天文情報公開センター・助教 授)

吉川 真 (宇宙科学研究所・助教授)

中村彰正 (久万高原天体観測館)

関連する講演番号: B01a～B21c

(3) 「見えてきた 2 型セイファート銀河の巨大ブラックホール—NGC6300 で見つかった速い強度変動の解析—」

記者会見発表者:

	9 月 25 日 (木)		9 月 26 日 (金)		9 月 27 日 (土)	
	10:00-12:00	14:00-16:00	9:30-11:30	13:30-15:30	9:30-11:30	13:30-15:30
A	富阪幸治 (国立天)	坪井陽子 (中央大)	中村文隆 (新潟大)	山下卓也 (国立天)	田村元秀 (国立天)	北村良実 (宇宙研)
B	福江 純 (大教大)	定金晃三 (大教大)	大山真満 (滋賀大)	横山央明 (東京大)	上野 悟 (京都大)	渡邊鉄哉 (国立天)
C	山岡 均 (九州大)	小谷太郎 (東工大)	久保田あや (宇宙研)	河合誠之 (東工大)	鳥居研一 (理化研)	和南城伸也 (上智大)
D	小林尚人 (東京大)	太田耕司 (京都大)	松原英雄 (宇宙研)	山田 亨 (国立天)	岩室史英 (京都大)	—
E	山本 智 (東京大)	米倉覚則 (大阪府大)	深沢泰司 (広島大)	和田桂一 (国立天)	藤沢健太 (山口大)	吉田道利 (国立天)
F	伊沢瑞夫 (水産大)	峰崎岳夫 (東京大)	海老塚 昇 (理化研)	小林秀行 (国立天)	川口則幸 (国立天)	坪井昌人 (茨城大)
G	—	吉川 真 (宇宙研)	松本浩典 (京都大)	吉田篤正 (青学大)	北本俊二 (立教大)	上野宗孝 (東京大)

粟木久光（愛媛大学理学部・助教授）

関連する講演番号：S10b

〈特別セッション：日本学術会議の改革について〉

本特別セッションは、日本学術会議改革に関する総合科学技術会議の答申を受けて改革案をまとめている段階で、広く日本天文学会会員に改革の経緯や改革案の中身を知っていただくとともに、日本の科学技術政策の動向も見ながら日本学術会議のあるべき改革を探ろうという目的で、天文学研究連絡委員会の主催で開催された。

まず、池内 了天文研連委員長から、日本学術会議改革の経緯・改革案・背景について報告した。2003年2月に総合科学技術会議の「日本学術会議改革に関する専門調査会」より出された案を骨子にした改革案とともに、社会的な影響力を失った日本学術会議をいかに蘇生させるかで種々の議論がなされているが、研連が廃止され課題別委員会となること、研連委員の代わりに連携会員を2,500人ほど選出すること、会員の選出は現会員の推薦によることなど、改革案には問題が多いことが指摘された。しかし、日本の学術の進め方について監視し、国際対応の窓口として機能し、研究者コミュニティの公的な意見交換の場、という日本学術会議が果たすべき重要な役割は変わらず、今後も改革案の行方に関心を持って見守っていくことが訴えられた。

つづいて、小杉健郎天文研連委員より、宇宙3機関統合の経緯や状況に触れつつ、総合科学技術会議が果たしている役割、研究者が審査をするピアレビューの重要性、日本学術会議に期待することなど、さまざまな分野で「改革」が叫ばれるなか、将来をじっくり見極めた改革のありようについて報告があった。宇宙3機関の統合では、大学と協力し合って研究・教育を進めるという目標が掲げられたが、他方では総合科学技術会議の採点でB評価がつくなど予断を許さない側面がある。その監視には日本学術会議の役割が欠かせないことが指摘された。

つづく討論では、研究者が行政の場でピアレビューを行う制度についての欧米の状況、科研費の審査委員の選出法の問題点、学術会議会員の再選不可の規程、などについて質疑があった。全体として、若手の参加が少なく、学術会議の置かれている状況を暗示しているが、今後改革の動向を広く知らせ、討論を続けていくことを確認した。

（池内 了 日本学術会議天文学研究連絡委員会委員長）

〈ALMA 特別セッション〉

日本天文学会、日本学術会議天文学研究連絡委員

会、同天文学国際共同観測専門委員会、同電波科学研究連絡委員会J分科会、国立天文台電波専門委員会ALMA計画推進小委員会の共同主催により、9月25日17:30から19:00まで開催された。今回はLMSA特別セッションから通算し8回目である。約200名にのぼる参加者があり、たいへん盛況であった。今回は「ALMAで探る宇宙—ALMAは近傍銀河に何を見るのか—」をテーマに、以下のプログラムで進められた。

1. あいさつ（天文研連委員長 池内 了）
2. ALMA計画の現状と今後  
（国立天文台教授 川辺良平）
3. パネルディスカッション「ALMAは近傍銀河に何を見るか」

司会：祖父江義明（東京大学教授）

パネリスト：今西昌俊（国立天文台）、和田桂一（国立天文台）、水野 亮（名古屋大学）、松本浩典（京都大学）、中西康一郎（国立天文台）

池内氏の挨拶に続き、川辺氏からALMA計画の進捗ならびに今後の予定が報告された。引き続き、近傍銀河に関するパネルディスカッションが執り行われた。和田氏は理論シミュレーションの観点から、水野氏と中西氏は現在進められている電波観測との関連から、今西氏と松本氏は赤外線やX線といった多波長観測を進めている立場から、近傍銀河での星間物質の性質（運動を含む）と星形成の関係、超高光度赤外線銀河のエネルギー源、などの解明の上でのALMAへの期待、また、研究者の連携の重要性、などが述べられた。世話人は、池内 了、長谷川哲夫、河野孝太郎、水野 亮、立松健一が担当し、当日の特別セッションの司会進行は立松健一が行った。（立松健一）

〈ジュニアセッション〉

ジュニアセッションは、原則的には春の年会時に行うことになっているが、なるべく発表の機会を増やすために、今回は秋の年会ではあるがポスター発表だけを受け付けることにした。秋の年会としては、2001年の秋季年会（姫路）でジュニアセッションを行ったことがあるが、今回のようにポスターだけ掲示する形式にしたのは初めての試みである。結果的には3件のポスター発表があった。ただし、期待していた年会開催地の近くからの申し込みはなかった。発表されたポスターについては、年会参加者にコメントを書いてもらい、発表者に送った。また、ポスター発表の内容は、次回の春のジュニアセッションの予稿集に掲載する予定である。

また、新しい企画として、地元の中高生との交流会を年会3日目の午後に行った。これは、中高生と研究



者とが直接話し合っ、中高生が日ごろ天文関係について疑問に思っていることなどに答えたり、研究者側からさまざまな情報を伝えようという試みである。地元の中学生3名(付添の先生1名)、および地元の高校生2名、そして近隣の科学館関係者や愛媛県出身の研究者など合計18名の参加があった。

今回行ったポスターのみの発表や交流会については、参加者こそ少なかったが、有意義な試みであった。今後もこのような試みを続けていきたいと思う。最後に、協力していただいた年会開催地の方々に感謝したい。(吉川 真)

#### 〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラムが、9月26日(15:30~16:30)に、「就職:採用する側とされる側のミスマッチ—こんな人材がほしい—」というテーマで行われた。若手を中心に200名を超える参加者があり、このテーマに関する関心の高さがうかがえた。まず、東海大学の比田井昌英氏には私立大学での教育や研究についての実状を、岩手大学の山内茂雄氏には地方大学での教育や研究の実状を紹介していただいた。次に、美星天文台の綾仁一哉氏には、公開天文台ではどのような人材を望んでいるかについて紹介していただいた。総合討論では、採用する側からのアドバイスや、私はこのようにトライして就職できたという実践の報告などがあったが、総会前の1時間という枠内であったため、十分な議論の時間がとれなかったことが残念である。なお、フォーラム会場で、若手の就職問題に関するアンケート調査を行った。このアンケートの結果は天文月報に掲載する予定である。また、今回のテーマについては継続の希望が多かったので、続編の実施を予定している。

(天文教育委員会フォーラム実行委員:  
沢 武文, 山縣朋彦)

#### 〈公開講演会〉

講演会のタイトルは「21世紀・宇宙への挑戦」で、9月28日(日)13時30分より松山市民会館で開催された。若松謙一副理事長(岐阜大学教授)の挨拶の後に、まず牧島一夫氏(東京大学教授および理化学研究所主任研究員)の講演「ガスを吸い込むブラックホールとX線の放射」が行われた。ブラックホールの名前はよく知られていても、一般の人にはとっつきにくそうな理論を地球と周囲を回る衛星に例えて、平易に説明がなされ、またレントゲン程度しか馴染みがないX線で、ブラックホールを探る意味や、さらには最新の観測結果とそれに関連した研究の解説もなされ、終始分かりやすく講演が進められた。休憩後には、家正則氏(国立天文台教授および総合研究大学院大学数物

科学研究科長)により「すばる望遠鏡で見る遠宇宙」のタイトルで講演が行われた。すばる望遠鏡の準備から建設まで、さまざまな困難を乗り越えた話は聴衆の関心をひき、また運搬の際の逸話はすばる望遠鏡の鏡がいかに大きいかを実感させるものであった。得られたばかりの画像も紹介され、美しい天体写真に魅了された。入場者数は107名で、各々の講演の後は活発な質問が出て、時間の超過が懸念されるほどであった。なかには公開講演会開催への励ましのご意見もいただき、たいへん心強く感じることができた講演会であった。(田 光江)

#### 〈通常総会〉

「通常総会報告」(695頁)を参照。

#### 〈懇親会〉

懇親会は9月26日(金)18:30~20:30に、愛媛大学城北キャンパス内の大学生協食堂において開催された。参加者は398名であった。愛媛大学学長の小松正幸氏の歓迎の挨拶、理事長の松田卓也氏の挨拶のあと、佐藤勝彦氏の乾杯で始まった。懇親会終了前には次回開催地を代表して名古屋大学の佐藤修二氏による挨拶があった。(栗木久光)

#### 〈保育室〉

保育室は学会会場に隣接した建物にある和室を使用した。2家族、子供のべ6名の利用があったほか、休憩室利用の親子1組の利用があった。保育者の派遣は(有)マミーズファミリーに依頼した。準備にあたっては愛媛大学の栗木久光さんと栗木瑞穂さんはじめ愛媛大学関係者にご協力いただいたことを感謝する。

(加藤万里子)

#### 〈企画セッション〉

##### 「アマチュアとプロの連携による天文学」報告

2003年秋季年会において、「アマチュアとプロの連携による天文学」のタイトルで企画セッションを開催しました。20件を超える講演が集まり、2時間枠に収めるために講演者の皆様には時間を切り詰めるなどたいへんなご協力をいただきました。初日午前にもかかわらず、常時70名以上の聴衆のご参加もあり、盛会裏に執り行うことができました。ここに厚く御礼申し上げます。

セッションの講演は、これまでの連携の歴史から、今後の活動の提案まで、多岐にわたるものでした。個人的に印象的だったことは、1987年にIAUコロキウム98“Stargazers: The Contribution of Amateur Astronomers to Astronomy”が開催され、さまざまな連携が実現されてきていることでした。また、複数の方々から、「研究者からの連携提案がもっと欲しい」との声があったことも挙げられます。

今回のセッションでも、2004年しし座流星群の月面衝突の観測や、系外惑星の食による主星の減光の観測など、興味深い連携の提案がなされました。今後また、連携の成果を発表し、さらなる共同についての提案をいただける場を設けていきたいと考えています。

(セッション世話人代表: 山岡 均)

(年会実行委員長: 土居 守)

## 【理事会議事録】

日時: 2003年9月25日(木) 12:00~14:10

場所: 愛媛大学城北キャンパス会議室

出席者: 松田, 祖父江, 若松, 杉山, 郷田, 関井, 松原, 蜂巢, 土橋, 土居, 田, 粟木, 佐藤

欠席者: 谷口, 花見

有効委任状提出者: 谷口, 花見

ほかに説明員として古在由秀氏, また東條事務長が出席した。

議事に先立ち, 議長および署名人を選出した。

議長: 松田卓也

署名人: 杉山直, 郷田直輝

## 報告

### 1. 前回議事録の確認(資料1)

杉山理事より前回(2003年6月28日)の理事会議事録が報告され, 原案どおり承認された。

### 2. 開催中の年会について

開催中の年会について, 粟木理事より, 全体として順調に推移しているとの報告があった。次に, 講演数, ポストデッドライン, 記者会見などの基本事項について, 土居理事より報告があった。講演数はこれまでの最高の595件を記録した。一方, 初日の会場準備についてはもう少し早い時間から行うべきであった。液晶プロジェクターにコンピュータ2台を切り替え方式で接続できるようにした点を, 前もって徹底すべきであったなどの反省点も出された。

### 3. 8月7日の記者会見と要望書の送付について(資料2)

田理事より, 8月7日に国立天文台内において行われた, 要望書「天文学に関する社会教育施設の充実」に関する記者発表の様子が報告され, またその反響について報告があった。

### 4. 学術交流費による旅費補助について

関井理事から, 今回の旅費補助は, 若手の会からの希望に沿って, 交通費から2万円を引いて定率を

かける, という方式で実行したとの報告があった。学術交流費の収入源である賛助会員に対して, 会員であり続けることのメリットとして, 今回から賛助会員一覧を年会受付に掲示した。また, 学会ホームページにも一覧を掲示してある。

### 5. 今期総会について

杉山理事より, 今期総会の議題などについて報告があった。

### 6. その他

#### (ア) 創立100周年記念出版事業編集委員会

祖父江理事(編集委員)より, 標記委員会の報告があった。全15巻を想定して, これまでに各巻の表題(仮題)と編集者の決定を行い, 現在, 各巻の章立て, キーワードを作成中である。近いうちに学会全体にwebで公開し, 内容等についてアンケートをとる予定である。

## 議題

### 1. 新入会員の承認(資料3)

杉山理事より, 資料に基づき, 新会員の入会が承認された。併せて, 退会者の報告があった。

### 2. 2005年春以降の年会について

2004年春名古屋大学, 同秋岩手大学, 2005年秋北海道大学まではこれまでに決定済みであった。ここでは2005年春は明星大学, 2006年春は和歌山大学, 同秋は九州国際大学において開催することを確認した。

### 3. 記念出版編集事業編集委員1名の増員について

長谷川哲夫氏を新たに編集委員とする件に関して, 質疑応答の後, 承認された。

### 4. 回転サーチライト禁止の法制化推進についての要望書(資料4)

杉山理事より, 経緯の説明があり, 星空を守る会会長の古在氏より, 事情説明があった。回転サーチライトが最近増加していて, 光害となっていること, それを禁止する法制度の整備を進める上で, 環境省に対して天文学会からの要望書提出を希望すること, 質疑応答の後, 要望書を提出することについては賛成多数で認められた。次に, 要望書の内容について討論があり, 祖父江副理事長がとりまとめ役となり, 理事長, 副理事長, 古在氏が中心となって理事会でまとめるということとなった。回転に限らず, サーチライト全般に対する反対に変更する可能性についても言及があった。

### 5. 月・火星の土地の違法販売防止のアピールについて(資料5)

松田理事長より事情説明があった。基本的には法



律の問題ではあるが、天文学会としても憂慮すべき事態であるので、今後の推移を見守る必要があること、被害が拡大するようであれば、IAUなどと連携し行動することも視野に入れることを確認した。

6. その他

(ア) 予稿集の書き方について

土居理事より、今回の予稿集について分量が非常に少ないもの、完成度の低いものが目立ち始めた点が憂慮されるとの報告があった。意見交換の後、年会実行委員に検討をお願いすることとなった。

(イ) 蜂巢欧文研究報告編集委員会委員長から、PASJの校正を新たに畑中至純氏に依頼したとの報告があった。つづいて、今年度に入ってから会員数が急増したために、PASJのバックナンバーの部数が足りなくなったという問題が報告された。新たな増刷は非常に高額であるとのことである。意見交換が行われ、web上で閲覧可能なことから、新たに増刷することはしない、配布できなかった新会員には事情説明をして納得していただく、との結論になった。

(ウ) 次回は1月10日(土)11:00から、国立天文台(三鷹)で開催することが決定された。

2003年10月21日

議長 松田卓也 ㊟  
署名人 杉山直 ㊟  
署名人 郷田直輝 ㊟

【評議員会議事録】

日時: 2003年9月26日(金) 12:30~13:25

場所: 愛媛大学城北キャンパス会議室

出席者: 井上, 太田, 岡村, 加藤, 小山, 須藤, 千田, 高橋, 福井, 牧島, 吉井, 家, 池内, 小杉, 佐藤(勝), 高津, 松田, 渡部 以上18名

欠席者: 海部, 柴田, 高原, 舞原, 石黒, 木下, 佐藤(修), 谷口, 中村, 野本, 長谷川, 林 以上12名  
有効委任状提出者: 海部, 高原, 舞原, 石黒, 木下, 佐藤(修), 谷口, 中村, 野本, 長谷川, 林 以上11名

ほかに理事会から祖父江, 若松, 杉山, 郷田, 関井, 松原, 土居が、事務局から東條が出席した。また、古在由秀氏が説明員として出席した。

議事に先立ち、議長および署名人を選出した。

議長: 太田耕司  
署名人: 佐藤勝彦, 須藤 靖

報告

1. 前回議事録の確認(資料1)

杉山理事より、前回(7月5日)の評議員会議事録が報告され、原案どおり承認された。

2. 開催中の年会について

開催中の年会に関して、講演数、参加者数などの基本事項が土居理事より報告された。講演数は595件であり過去最高であったとのこと。また、記者発表とその後の報道状況についても報告があった。

3. 8月7日記者会見と要望書の送付について(資料2)

杉山理事, 松田理事長から報告があった。記者会見には新聞記者7名が出席し、その後6件以上の記事として紹介されるなど、大きな反響を呼んだ。なお、要望書の送付に対して、一部からその送付宛先に対する要望や、地方自治体の財政状況の厳しさを訴える手紙などが理事長宛に寄せられた。

4. 創立100周年記念出版事業編集委員会について

杉山理事から長谷川哲夫氏が新たに編集委員に加わったとの報告があり、岡村編集委員長から補足説明があった。

5. 総合科学技術会議に対する声明文について(資料3)

佐藤(勝)評議員から、関連諸学会(5学会)と共同でまとめた標記声明文を、8月中に送付するとの北原物理学会会長から連絡があったので、小泉総合科学技術会議議長宛に送付されたと思われる、との報告があった。記者会見などは行われていない。

6. 今期総会について

杉山理事より、今期総会の議題などについて報告があった。

7. その他

(ア) 内地留学奨学金の選考について

内地留学奨学金選考委員会西村昌能委員長代理として、杉山理事より、選考の結果3名の方が選ばれたとの報告があった。

(イ) 創立100周年記念出版事業編集委員会報告

岡村編集委員長より、これまでの編集委員会の活動が次のように報告された。基本的方針が決定され、出版社の選定について話し合った。レベルは学部生も読むことが可能な程度で、全部で15巻程度を予定している。現在、各巻の内容について議論を進めていて、編集委員による第1次案を作成し、近いうちに天文学会会員にweb上で公開、広く意見を求める予定である。最終的には、2007年の1年間に15冊全巻を出す計画であり、執筆者は100人規模になる予

定。出版社の選定に関連して、8月25日に説明会を行った。出席は5社であり、10月末締め切りで各社に計画書提出を要求した。計画書を検討の上、出版社を決定する予定である。

## 議 題

### 1. 回転サーチライト禁止の法制化推進についての要望書について(資料4)

杉山理事より事情説明があり、古在氏(星空を守る会会長)より詳しい補足説明があった。祖父江副理事長が中心となって、理事会と発案者である古在氏が要望書を作成することについて承認された。回転サーチライトという言葉が、具体的にどのようなものを指すのかという疑問や、レーザーガイド星を利用するなど天文関係でも光を上空に打ち出しているの、そちらが同時に規制されないように注意すべきである、などの意見が出された。

### 2. その他

#### (ア) 年会の予稿集について

加藤評議員から、今回の年会予稿集に、分量の少ないもの、結果の書いていないものが多く見受けられるので、改善をうながすべきであるとの提案があった。これに対して、土居理事より、特に企画セッションにおいて問題が大きいので、コンペーナにまず予稿がいくようにチェックしてもらい、その後実行委員会に渡すようにシステムを変更するなどの年会実行委員会の取り組みが紹介され、予稿集をよりよいものにするべく呼びかけていくとの報告があった。杉山理事から、完成度の高さをあまり強く要求すぎるあまり、最新の研究成果の発表が控えられてしまうことは避けるべきであるとの意見が出された。

(イ) 次回の日程次回の評議員会は、1月24日(土)11:00から国立天文台(三鷹)で行うことを決定した。

2003年10月23日

議 長 太田耕司 ㊟

署名人 佐藤勝彦 ㊟

署名人 須藤 靖 ㊟

## 【2003年度秋季通常総会議事録】

日 時: 2003年9月26日(金)17:00~18:00

場 所: 愛媛大学城北キャンパス共通教育講義棟大講義室(A会場)

議事に先立ち出席者数の確認がなされた。総会出席

者数は145名、事前投票総数は355である。出席者のうちで事前投票をした33名については、事前投票を無効とした。したがって有効出席者総数は467名で、定足数(正会員総数1,534人の5分の1=307名)を満たすことを確認した。次に署名人として面高俊宏氏、吉田春夫氏が選出された。

## 議事の経過および議案の採決結果

### 議 案

#### 1. 第1号議案 2004年度事業計画(案)(資料1)

杉山理事より2004年度事業計画(案)の説明があり、質疑応答の後、原案どおり賛成多数で承認された。質疑応答としては、創立100周年記念出版事業に関する今後の予定について、国立天文台の亀野誠二氏から質問があり、岡村創立100周年記念出版編集委員会委員長より次の説明があった。レベルは学部生も読むことが可能な程度で、全部で15巻程度を予定している。現在、各巻の内容について議論を進めていて、編集委員による第1次案を作成し、近いうちに天文学会会員にweb上で公開、広く意見を求める予定である。最終的には、2007年の1年間に15冊全巻を出す計画である。つづいて、東京大学半田利弘氏より、小委員会と委員会の違い、具体的には、創立100周年記念出版編集委員会と教材小委員会がなぜ名称上異なっているのかについて質問があり、理事会で検討することとなった。つづいて、2号の増刊が予定されている欧文研究報告に関して、増刊の内容や今後の月刊化への予定について国立天文台の高野秀路氏より質問があった。蜂巣欧文研究報告編集委員長より、今回の増刊は特集号であること、月刊化は人員不足のため急遽行うことは困難であるが、今回の増刊でテストする予定であるとの説明があった。

#### 2. 第2号議案 2004年度収支予算(案)(資料2)

関井理事より、2004年度収支予算(案)の説明があり、質疑応答の後、原案どおり賛成多数で承認された。質疑応答としては、国立天文台の大石雅寿氏より、学術交流費による若手の旅費補助に関して、これまで理事会評議員会などで話し合われてきた内容を教えて欲しいとの質問があった。関井理事から、旅費補助の基本となる考えは、若手が経済的問題で年会に参加できないということのないようにする、という説明があり、つづいて高津評議員(京都大学)より、若手の会の取り組みが紹介された。具体的には、アンケートを行い、それに基づいて分配の方式などを工夫しているとのことである。須藤評議員(東京大学)からは、現在は大学院学生にも科



学研究費による旅費補助が可能であることの紹介と、各研究機関、研究室に対して、可能な限り科学研究費を用いた補助を期待する旨の呼びかけがなされた。小杉評議員（宇宙研）から、賛助会員になることのメリットが必要なのでは、という意見が出され、松田理事長からは、今回の年会から賛助会員の名簿を受付に掲示していること、また学会ホームページ上にも公開しているとの説明があった。

3. 第3号議案 第15期評議員候補者（資料3）

松田理事長より、第15期評議員候補者が紹介され、原案どおり賛成多数で承認された。今回、これまでの15名から10名に改選数が減員になった事情について、改めて説明があった。

報告

1. 創立100周年記念出版事業編集委員4名の増員（資料4）

松田理事長より、理事会において決定され、評議員会でもすでに報告のあった創立100周年記念出版事業編集委員4名の増員が報告された。

2. 要望書—天文学に関する社会教育施設の充実—

（資料5）

松田理事長から標記要望書に関して報告があった。記者会見には新聞記者7名が出席し、その後6件以上の記事として紹介されるなど、大きな反響を呼んだ。

3. その他

（ア）天文学会各賞の推薦依頼

天体発見賞選考委員会山岡委員長より天文功労賞の推薦、研究奨励賞選考委員会嶺重委員長から研究奨励賞の推薦、のそれぞれお願いがあった。後者は特に観測分野からの推薦も期待しているとのことである。

（イ）記者発表について

国立天文台の林 左絵子氏より、年会直前の記者発表の概要について質問があり、土居理事より説明があった。

2003年10月21日

議長 松田卓也 ㊟

署名人 面高俊宏 ㊟

署名人 吉田春夫 ㊟

編集委員 土橋一仁(編集長), 上田暁俊, 大石奈緒子, 太田耕司, 亀野誠二, 濤崎智佳, 藤田 裕, 洞口俊博, 増田 智  
平成15年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会  
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 株式会社 国際文献印刷社  
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会  
Tel: 0422-31-1359(事務所)/0422-31-5488(月報・欧文編集) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595  
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 E-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)